

施工説明書

高強度インシュレーションボード

アセダス・
耐震ボード

●取り扱い上の注意点	2
------------	---

●施工方法	
□釘打ちピッチとネイルライン	4
□木造軸組直張り仕様 (大壁)	5 <small>認定番号 FRM-0150 壁倍率2.6倍 (CN50釘使用) 認定番号 FRM-0304 壁倍率2.7倍 (N50釘使用)</small>
□木造軸組直張り・床勝ち仕様	7 <small>認定番号 FRM-0236 壁倍率2.6倍 (CN50釘使用)</small>
□木造軸組直張り・大壁・たて受材仕様	8 <small>認定番号 FRM-0204 壁倍率3.0倍 (CN50釘使用) 認定番号 FRM-0305 壁倍率2.6倍 (N50釘使用)</small>
□施工上の留意点	9
□施工および納まりのポイント	10
□木造軸組直張り・サイディング仕様	10
□木造軸組直張り・モルタル仕様 (通気構法の場合)	17
□木造軸組直張り・モルタル仕様 (非通気構法の場合)	19

●参考資料	
□アセダス・耐震ボード 耐力壁認定番号	23
□使用できる釘のJIS規格および対応する釘打ち機	23
□耐力壁の作り方のポイント	24
□主な防耐火構造一覧	25

取り扱い上の注意点

運搬・保管・施工に際しての注意点

運搬

- 持ち運びの際は角を強くぶつけると破損するおそれがありますのでご注意ください。
- アセダス・耐震ボードの取扱い性は下記の通りです。
【 3×9尺品：約12.7kg 】 【 3×10尺品：約14.1kg 】
【 1000mm×3030mm品：約15.5kg 】

保管

- 保管時は平らな面に置き、台木等に乗せて地面に直置きしないようにしてください。
また、防水シート等を上から被せて雨水がかからないようにしてください。

施工

- アセダス・耐震ボード施工後はすみやかに透湿防水シートを施工してください。
- 強風時には施工作業を行わないでください。

その他の注意点

- アセダス・耐震ボードの熱伝導率は $0.0693\text{w/m}\cdot\text{k}$ （熱抵抗値は $0.173\text{m}^2\text{K/w}$ ）です。アセダス・耐震ボードだけでは十分な断熱性は取れませんので、グラスウールなどでご対応ください。
- 防火構造および準耐火構造については、本説明書の25・26ページをご参照ください。
- ウレタンフォーム等の現場発泡吹付け施工は、高熱と水分が発生する場合がありますので、ウレタンフォームメーカーに確認をお願いします。
- 土台および土台以外の木部の防腐・防蟻処置については住宅金融支援機構の工事仕様書内容にて実施ください。
- FRP防水を施工する際、アセダス・耐震ボードは合板等よりプライマーの吸収が多い為、吸い込みが止まるまで多めに塗るようご注意ください（標準量の2倍程度）。

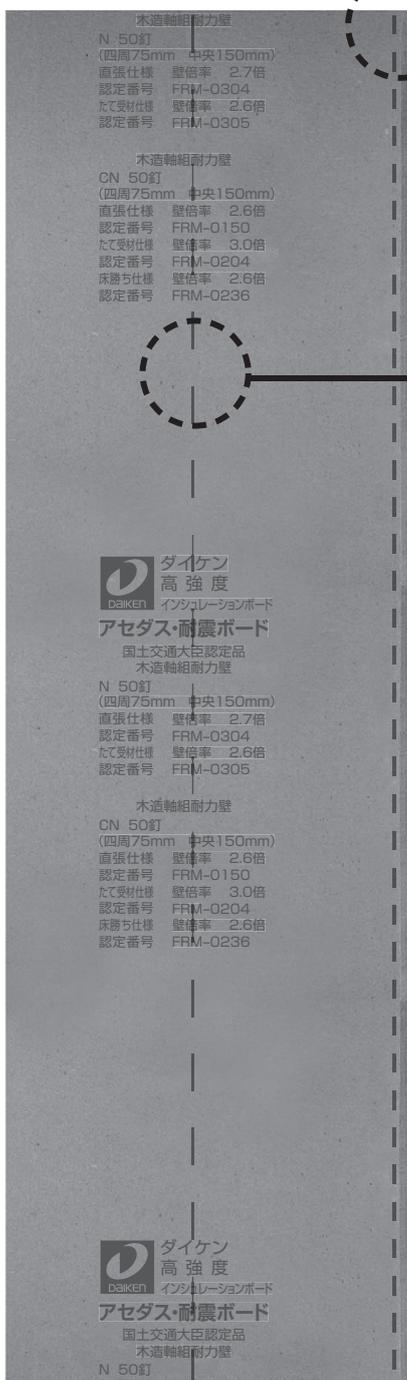
高強度インシュレーションボード

アセダス・耐震ボード 施工方法

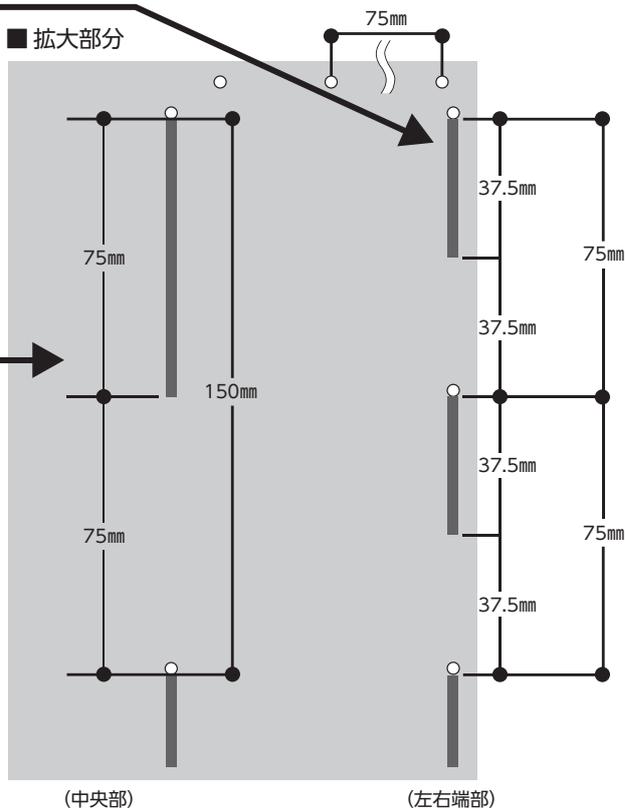
釘打ちピッチとネイルライン

「アセダス・耐震ボード」の表面には、左右端部に37.5mm、中央部には75mm間隔で長辺方向に釘打ち間隔の目安となるネイルラインが印刷されています（黒色の破線）。釘打ちする際には、外周75mm以下、中央部150mm以下のピッチで釘打ちしてください。横架材への釘打ちの際は75mm以下のピッチでマーク付けを行なってください。

アセダス・耐震ボードの外観



■ 拡大部分



■ 製品品番・サイズ表

品番	サイズ (mm)
GA1602-1	厚さ12×幅910×長さ2,730
GA1602-2	厚さ12×幅910×長さ3,030
GA1602-3	厚さ12×幅1,000×長さ3,030

木造軸組直張り仕様（大壁）

認定番号 FRM-0150 壁倍率2.6倍（CN50釘使用）

認定番号 FRM-0304 壁倍率2.7倍（N50釘使用）

● 軸組の条件

軸組材の断面寸法は以下のとおりです。

柱、土台、梁、胴差および桁	105mm × 105mm 以上
間柱	30mm × 105mm 程度（CN50釘仕様）
	27mm × 105mm 以上（N50釘仕様）
継ぎ手間柱（半柱）	45mm × 105mm 以上
横架材間の内寸法	2315mm ~ 2925mm

※横架材（土台、桁等）へのかかりは約45mm以上確保してください。

※間柱および継手間柱は梁、土台等にほぞ差し又はN75（2本）斜め打ちで留めつけてください。

● アセダス・耐震ボードの取り付け方法

① 面材の配置

- 面材は、柱、中間柱の位置で割り付け、印刷面を外側にして施工してください。
- 面材の垂直方向の継手位置は柱および中間柱とし、水平方向の継手位置は梁、桁、胴差し、土台としてください。
- ※横継手を横架材（梁、桁、胴差し、土台）以外の胴つなぎ材で継ぐ場合は耐力壁となりません。

② 面材の留め付け

- アセダス・耐震ボードの釘打ちは太め鉄丸釘（CN50）又は鉄丸釘（N50）にて四周@75mm以下、中央部@150mm以下で柱、間柱、土台、桁、梁などの下地に直接取り付けてください。（横架材への釘打ちの際はマーク付けを行なってください。）
- 釘のへりあき距離は10mm以上確保してください。
- 継手部分の釘位置は揃えてください。
- アセダス・耐震ボードを仮留めで放置しないでください。

SN40釘での施工および胴つなぎ材を設けての施工は耐力壁として認められませんのでご注意ください。

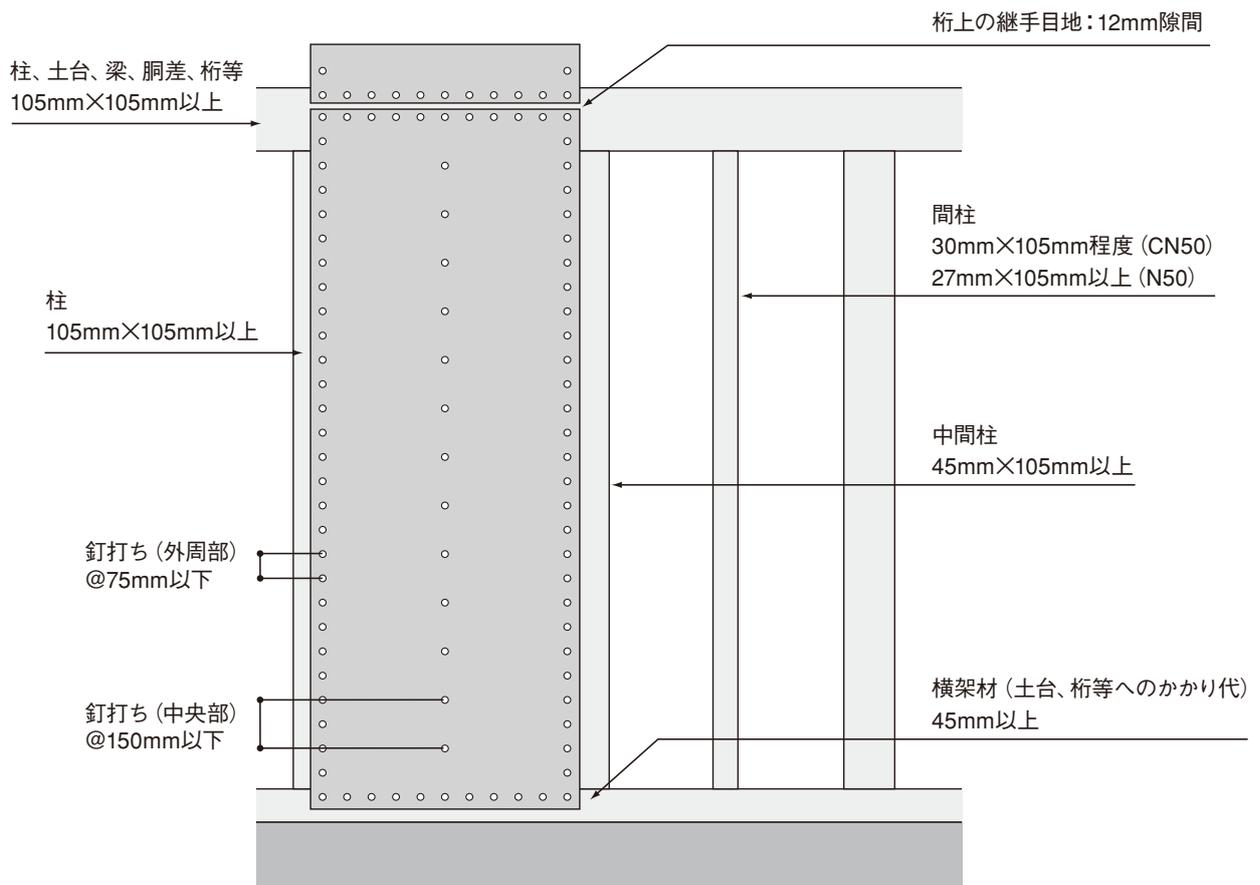
③ 目地

- 面材のたて目地部分は軽く突き付けてください。
- 横架材位置における面材の水平目地のクリアランスは12mmとしてください。

④ 釘打ち方法

- 機械打ちの場合、アジャスターを使用し、あらかじめ空気圧を十分に調整し、釘が面材にめり込みすぎないようにしてください。（釘のめり込みは2mm未満）

アセダス・耐震ボードの張り方
(直張り大壁仕様)



● 軸組の条件

軸組材の断面寸法は以下のとおりです。

柱、土台、梁、胴差および桁	105mm×105mm 以上
間柱	30mm×105mm 程度
中間柱	45mm×105mm 以上
横受材	30mm× 40mm 以上

※横架材（土台、桁等）へのかかりは約45mm以上確保してください

※間柱および継手間柱は梁、土台等にほぞ差し又はN75（2本）斜め打ちで留めつけてください。

● アセダス・耐震ボードの取り付け方法

- アセダス・耐震ボードは軸組の柱、梁、胴差、桁、間柱および受材等に直接留めつけてください。
- 留め付けにはCN50を使用してください。
- アセダス・耐震ボードの釘打ちは太め鉄丸釘 (CN50)にて四周75mm以下、中央部150mm以下ピッチで柱、間柱、土台、桁、梁などの下地に直接取り付けてください。
(横架材および横受材への釘留め位置はマーキングを行なってください。)
- へりあき距離は10mm以上確保してください。
- アセダス・耐震ボードを仮留めで放置しないでください。

● 受材の取り付け方法

- 受材（床部）は、床材を介し横架材に固定してください。
- 受材の留め付けにはN75またはN90釘を用い※1、釘の打ち始めは柱および間柱から30mm～50mmほど離れた位置から打ち始め、200mm以内の間隔で留めつけてください。

※1：横受材の厚さと床下地材の厚さの合計が58mm以下の場合はN75釘を、58mmを超える場合はN90を用い、かつ釘の横架材への打ち込み量は17mm以上を確保すること。

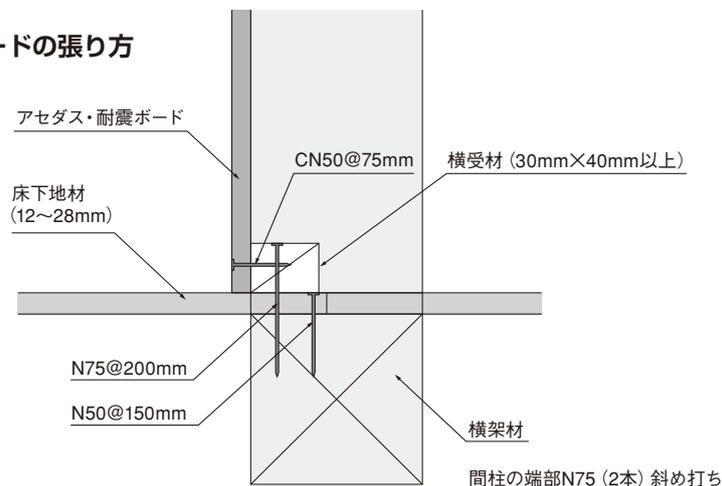
● 床下地板の取り付け方法

- 床下地材の厚さは12mm以上、28mm以下としてください。
- 床下地材は所定のくぎ※2 150mm以内の間隔で留めつけてください。

※2：JIS A 5508に示される鉄丸くぎで、N50またはそれより長いもの。

アセダス・耐震ボードの張り方 (床勝ち仕様)

※ CN50釘のみ



木造軸組直張り・大壁・たて受材仕様

認定番号 FRM-0204 壁倍率3.0倍 (CN50釘使用)

認定番号 FRM-0305 壁倍率2.6倍 (N50釘使用)

● 軸組の条件

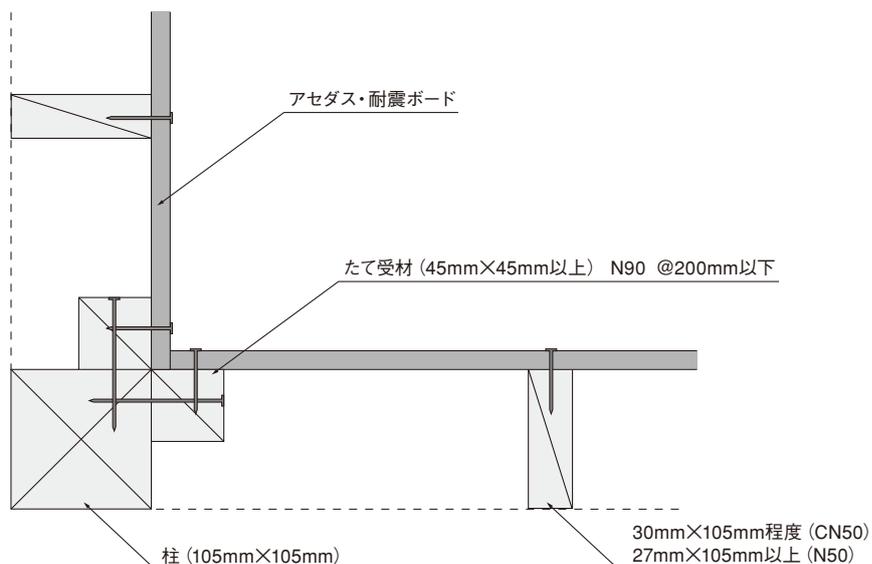
軸組材の断面寸法は以下のとおりです。

柱、土台、梁、胴差および桁	105mm× 105mm 以上
間柱	30mm× 105mm 程度 (CN50釘仕様)
	27mm× 105mm 程度 (N50釘仕様)
中間柱	45mm× 105mm 以上
たて受材	45mm× 45mm 以上
横架材間の内寸法	2315mm ~ 2925mm

※横架材（土台、桁等）へのかかりは約45mm以上確保してください。

● アセダス・耐震ボードの取り付け方法

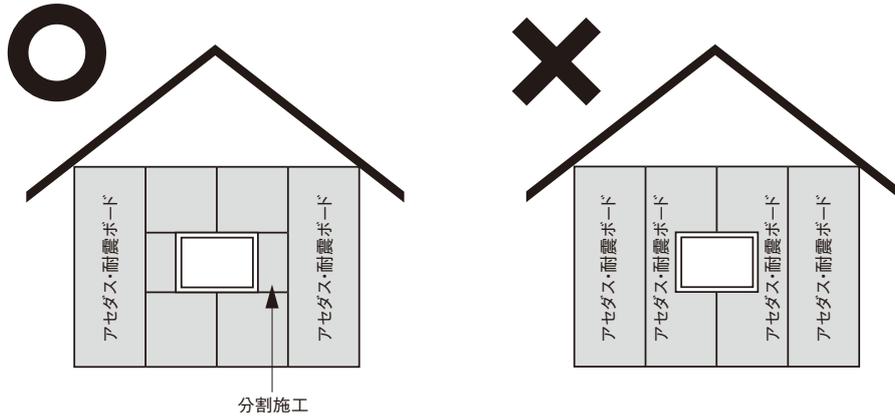
- アセダス・耐震ボードは軸組の柱、梁、胴差、桁、間柱および受材等に直接留め付けてください。
- 留め付けにはCN50またはN50を使用してください。
- アセダス・耐震ボードの釘打ちは太め鉄丸釘（CN50）又は鉄丸釘（N50）にて四周75mm以下、中央部150mm以下のピッチで柱、間柱、土台、桁、梁などの下地に直接取り付けてください。（横架材への釘留め位置はマーキングを行なってください。カットにより縦方向のネイルラインが無い場合も同様にマーキングを行なってください）
- へりあき距離は10mm以上確保してください。
- アセダス・耐震ボードを仮留めで放置しないでください。
- たて受材の留め付けにはN90釘を用い、釘の打ち始めは受材端部から50～100mm離し、200mm以下の間隔で留めつけてください。

アセダス・耐震ボードの張り方
(たて受材仕様)

施工上の留意点

【アセダス・耐震ボードの施工の留意点】

- アセダス・耐震ボードが窓等の開口に掛かる場合は切り欠かずに分割施工してください。
この際、釘打ちは周辺部75mm以下、中通り150mm以下のピッチとしてください。（下図参照）

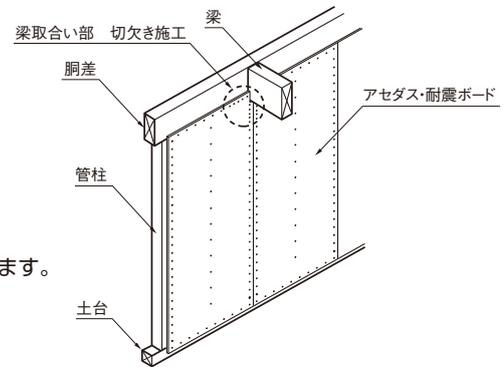


【胴差・桁一梁取合い部の切欠き（釘増し打ち）施工の留意点】

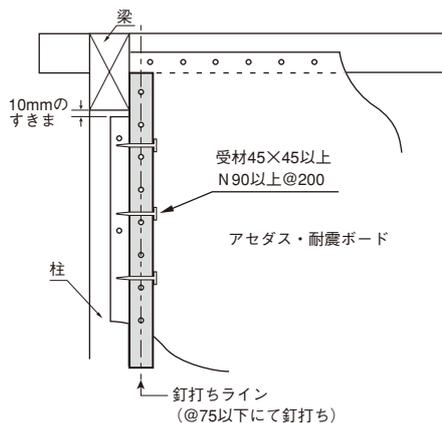
- ①胴差・桁と梁があたる部分では、アセダス・耐震ボードを切り欠いて納めます。
- ②梁下面から10mm間隔をあけて、アセダス・耐震ボードを切り欠きます。
- ③釘は切り欠き部から50mm程度離して打ち始めます。
- ④切り欠き部は、釘打ちラインを通して（省略された本数+1本）分釘の増し打ちをしてください。（釘増し打ち施工の場合）

※増し打ちルール

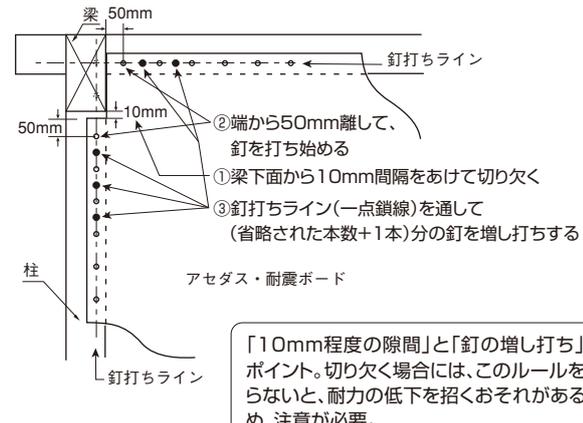
- 釘打ちラインに対して省略されている本数プラス1本の釘を（端部の切り欠き）縦方向、横方向にそれぞれ増し打ちする。（中間部の切り欠き）上下両方向それぞれに増し打ちする。
- ⑤梁取合い部の切り欠き（切り落とし）サイズは、120mm程度までとします。（右図のように釘が2本省略される場合を限度とします）したがって、これより大きな切り欠きとなる場合は、「受材施工」としてください。



■受材施工の方法（※釘増し打ちをしない場合）



■釘増し打ち施工の方法（切り欠き部周辺釘増し打ち）

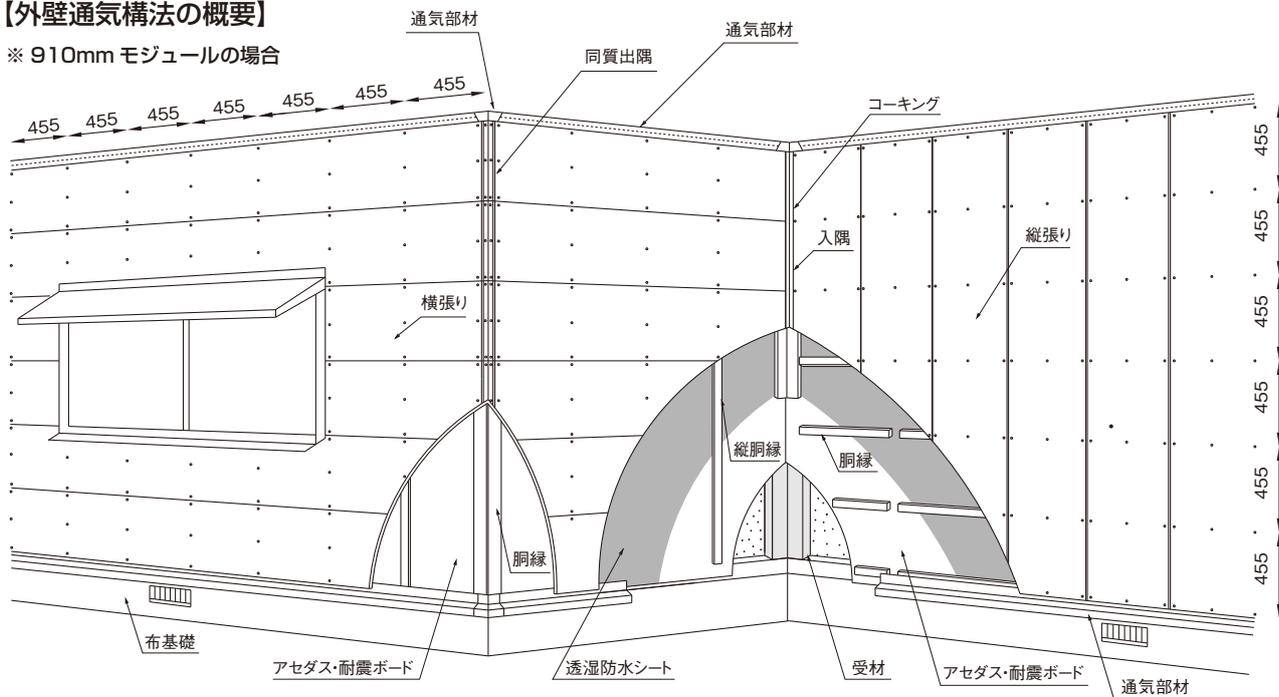


施工および納まりのポイント

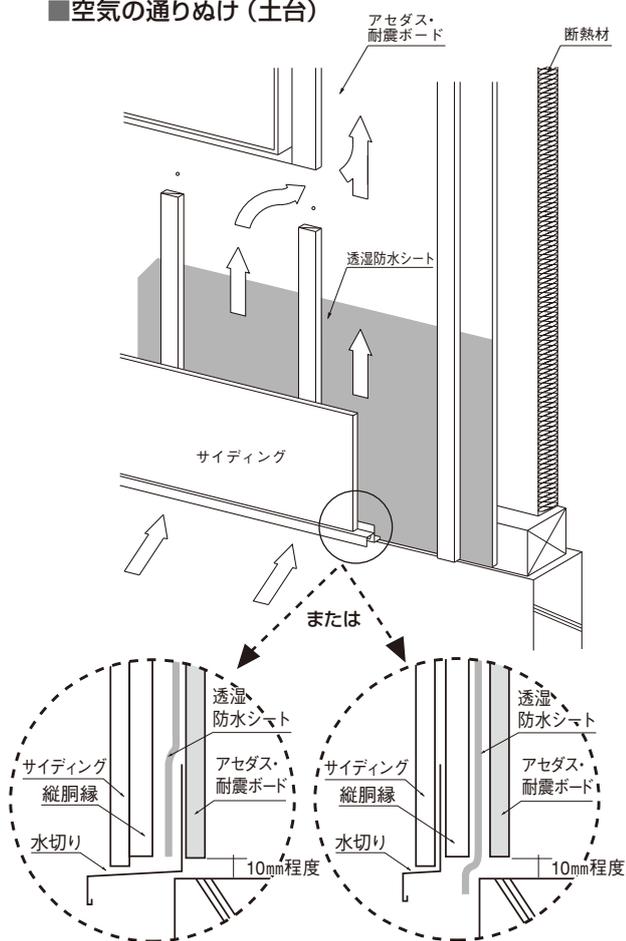
木造軸組直張り・サイディング仕様

【外壁通気構法の概要】

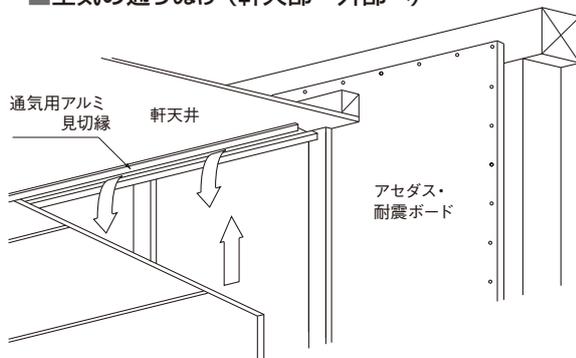
※ 910mm モジュールの場合



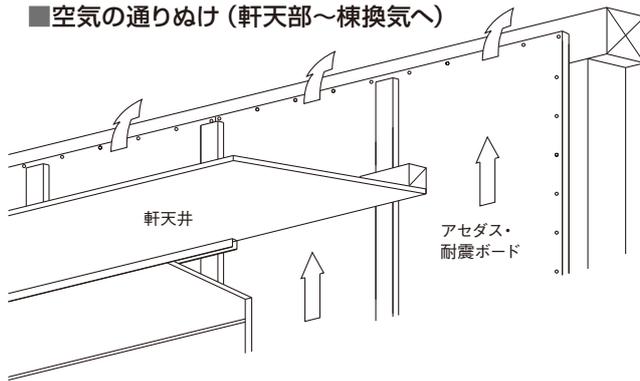
■ 空気の通りぬけ (土台)



■ 空気の通りぬけ (軒天部～外部へ)



■ 空気の通りぬけ (軒天部～棟換気へ)

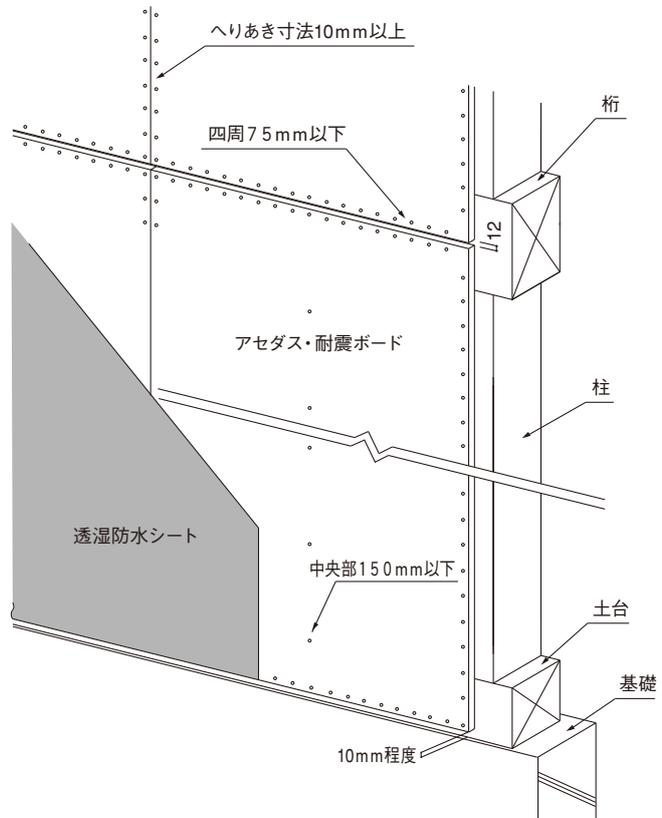


施工および納まりのポイント

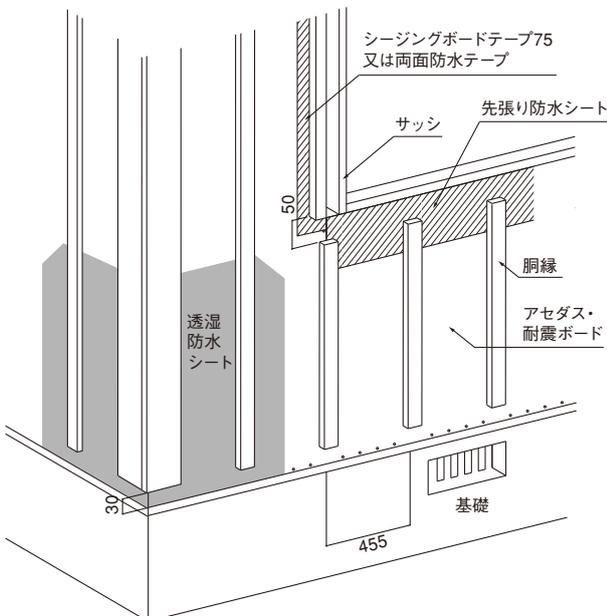
木造軸組直張り・サイディング仕様

■ アセダス・耐震ボードの施工

- ・取り付けは、柱・間柱位置で表面の印刷側を外側にして、軽く突きつけて施工してください。
- ・縦方向に継ぐ場合は、必ず桁上等で行い、上下のアセダス・耐震ボードは12mmの隙間をあけてください。
- ・アセダス・耐震ボードの釘打ちはCN50釘又はN50釘にて四周75mm、中央部を150mmのピッチで柱・間柱・土台・桁・はり・開口部周辺などに行います。耐力壁とならない箇所では継ぎ手のある場合には45×100mm以上の胴つなぎ材を設けてください。
- ・アセダス・耐震ボードは必ず軒桁に取り付けてください。このため、アセダス・耐震ボードは軒天施工前に施工してください。
- ・アセダス・耐震ボードの下端は基礎天端から10mm程度浮かせて施工してください。
- ・表面にはアセダス・耐震ボードを施工後は、すみやかに透湿防水シートを必ず施工してください。上下の重ね代、左右の重ね代はメーカーの施工仕様書に従い十分とってください。
- ・アセダス・耐震ボードが雨等で濡れた場合は、1～2日あけて乾いた事を確認してから透湿防水シートを施工してください。
- ・開口部の窓枠下部にはサッシを取り付ける前に防水シートを先張りしてください。窓枠上部および左右端部にはシーリングボードテープ75又は両面防水テープを施工ください。

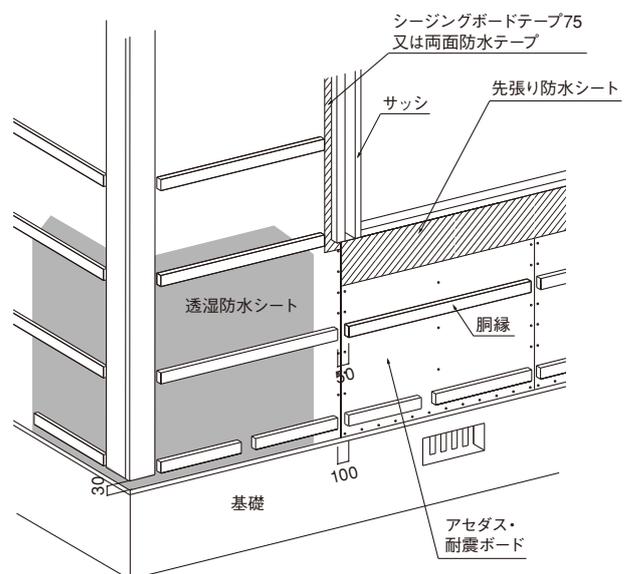


■ 胴縁の施工 (縦胴縁の場合)



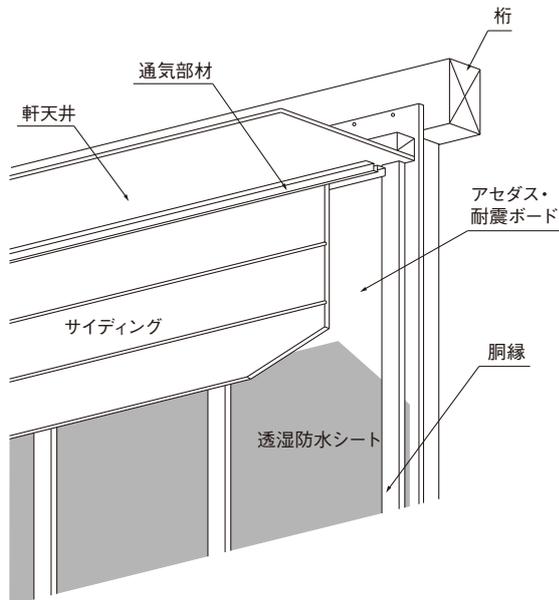
- ・胴縁は、柱・間柱位置に取り付けてください。
- ・胴縁取り付け用の釘はN-65以上@455mm以下としてください。
- ・胴縁の下端部は基礎天端より30mm程度上部に取り付けてください。
- ・開口部は四周に胴縁をまわしてください。開口部四周の胴縁と柱・間柱の胴縁とは約50mmの隙間を設けてください。
- ・サイディングの横継ぎ部は柱上とし、幅90mm以上になるように縦胴縁(ダブル又は広巾)を取り付けてください。出入隅部の胴縁についてもダブル又は広巾を取り付けてください。

■ 胴縁の施工 (横胴縁の場合)



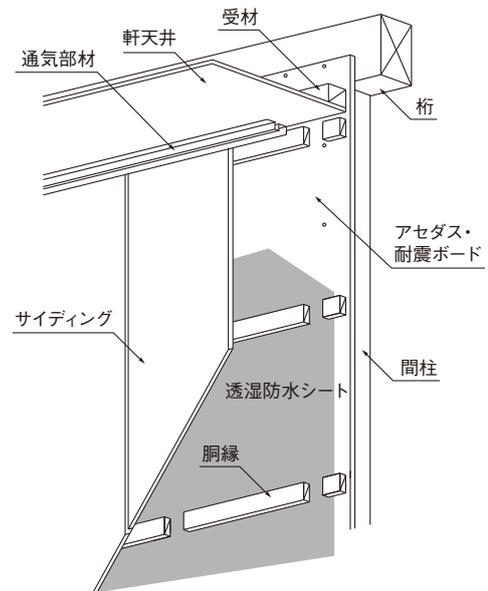
- ・胴縁は、455mm以下の間隔で横に取り付けてください。
- ・胴縁取り付け用の釘は65mm以上@455mm以下としてください。
- ・最下部の胴縁は基礎天端より30mm程度上部に取り付けてください。
- ・胴縁の継手部は柱上とし、50mm程度の隙間を1820mm以内に設けてください。
- ・最上下部の胴縁は、100mm程度の隙間とし、しかも隙間は910mm以下のピッチとしてください。
- ・開口部回りは、四周とも胴縁をまわしてください。

■ 軒天部の納まり (通気用見切縁使用)
(縦胴縁の場合)



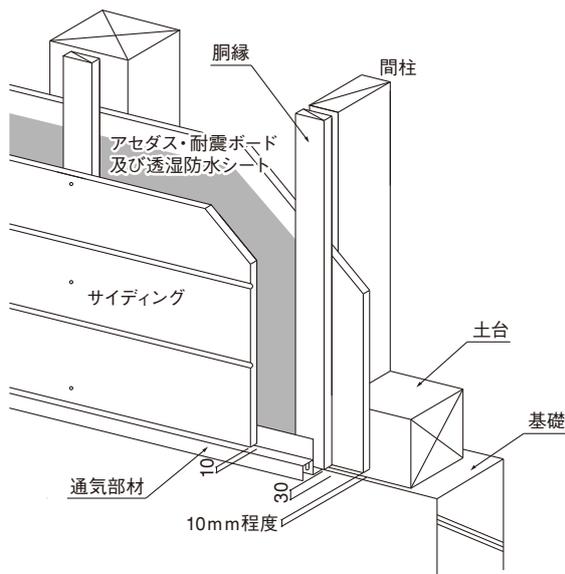
- ・胴縁施工前に軒天を取り付けておきます。
- ・通気用見切縁は壁面側胴縁と軒天上下地に釘止めます。

■ 軒天部の納まり (通気用見切縁使用)
(横胴縁の場合)



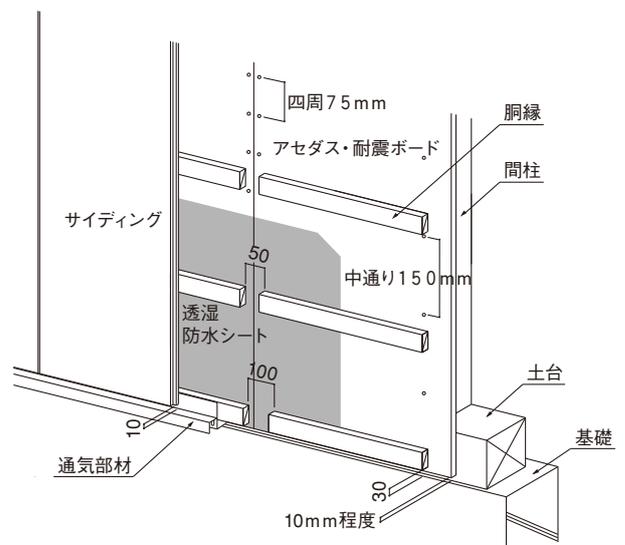
- ・胴縁施工前に軒天を取り付けておきます。
- ・通気用見切縁は壁面側胴縁と軒天上下地に釘止めます。

■ 土台部の納まり (縦胴縁の場合)



- ・通気用土台水切をサイディング施工前に胴縁上に取り付けてください。

■ 土台部の納まり (横胴縁の場合)

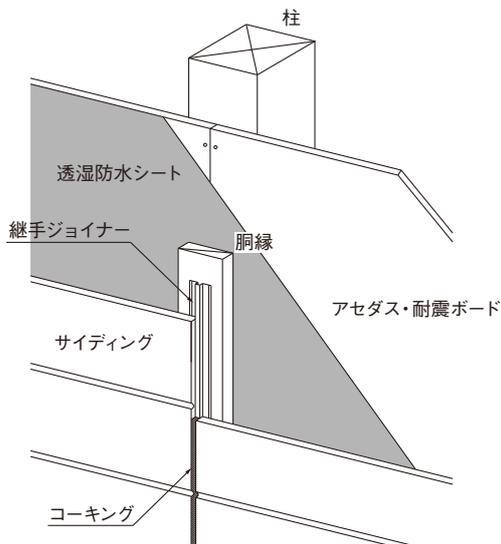


- ・胴縁の継手部は柱上とし、50mm程度の隙間を1820mm以内に設けてください。
- ・最下部の胴縁は100mm程度の隙間とし、しかも隙間ピッチは910mm以下としてください。
- ・最下部の胴縁は基礎天端より30mm程度上に取り付けてください。

施工および納まりのポイント

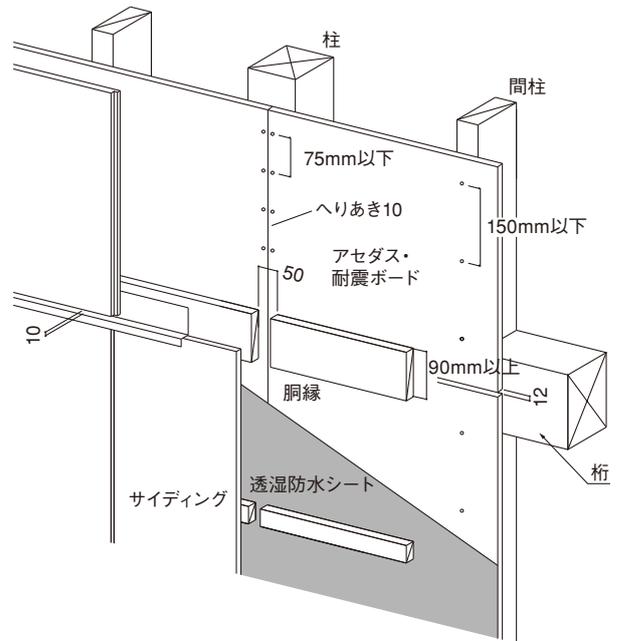
木造軸組直張り・サイディング仕様

■ジョイント部の納まり（縦胴縁の場合）



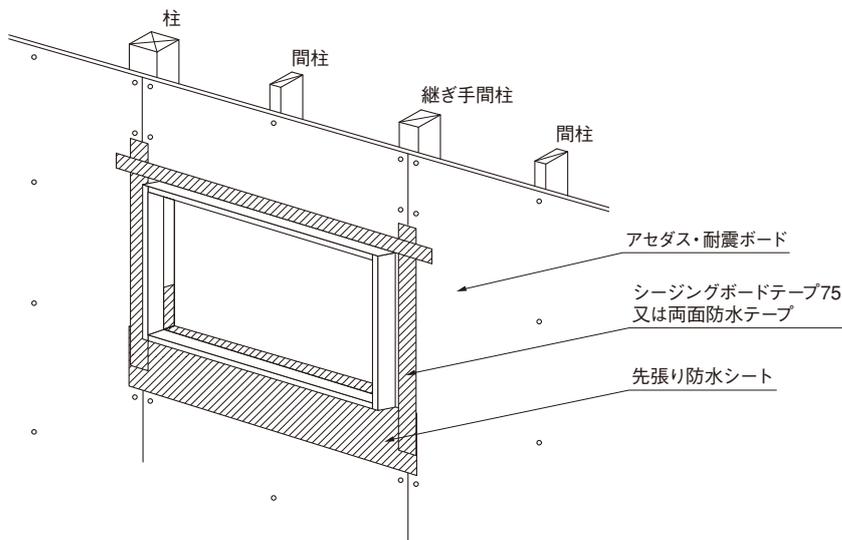
・ジョイント部は必ず柱上で幅90mm以上になるように縦胴縁（ダブルまたは広巾）を取り付けてください。

■ジョイント部の納まり（横胴縁の場合）



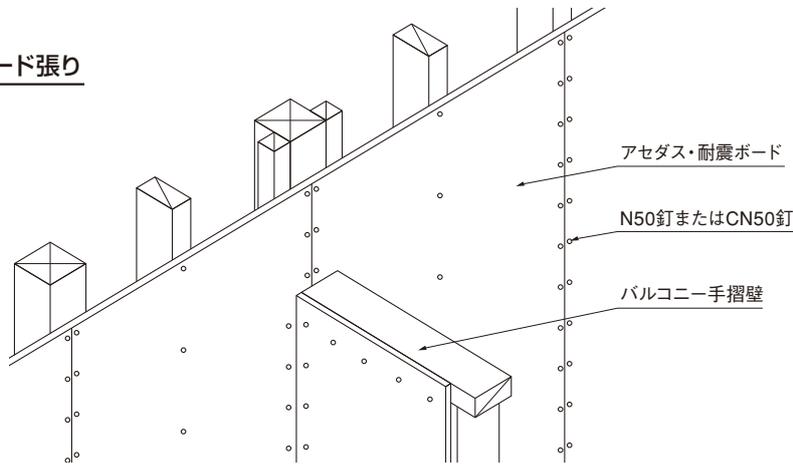
・ジョイント部は幅90mm以上になるように横胴縁（ダブルまたは広巾）を取り付けてください。

■サッシ周りの防水テープ施工（必ずアセダス・耐震ボードを先に取り付け、サッシは後付けにしてください。）

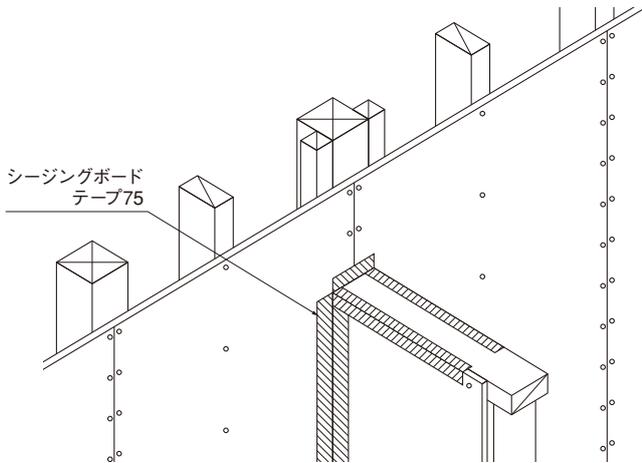


■バルコニー部の納まり

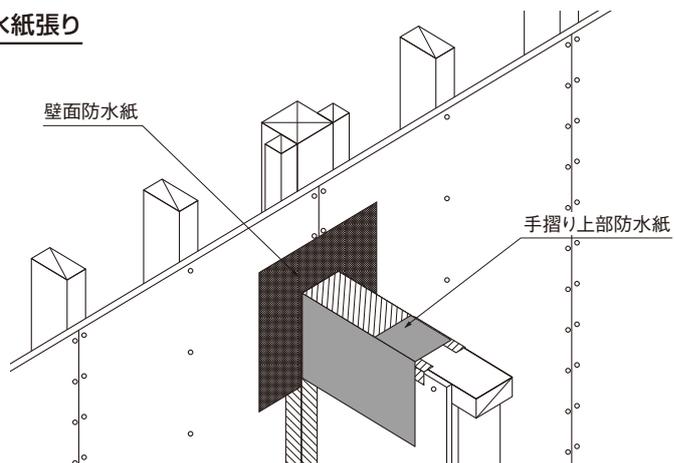
ボード張り



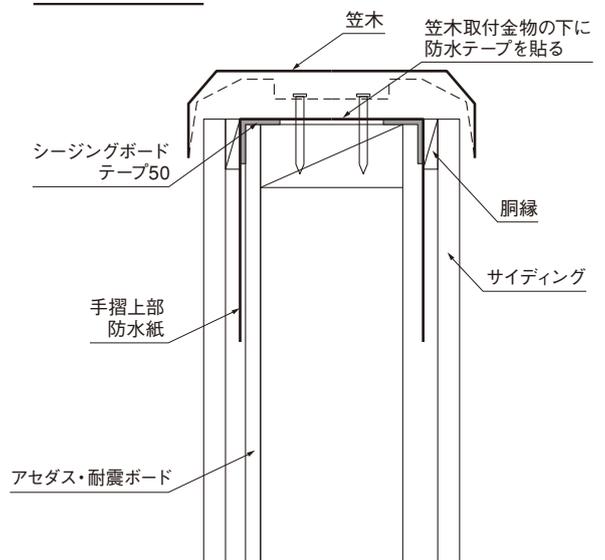
防水テープ (シージングボードテープ) 張り



防水紙張り



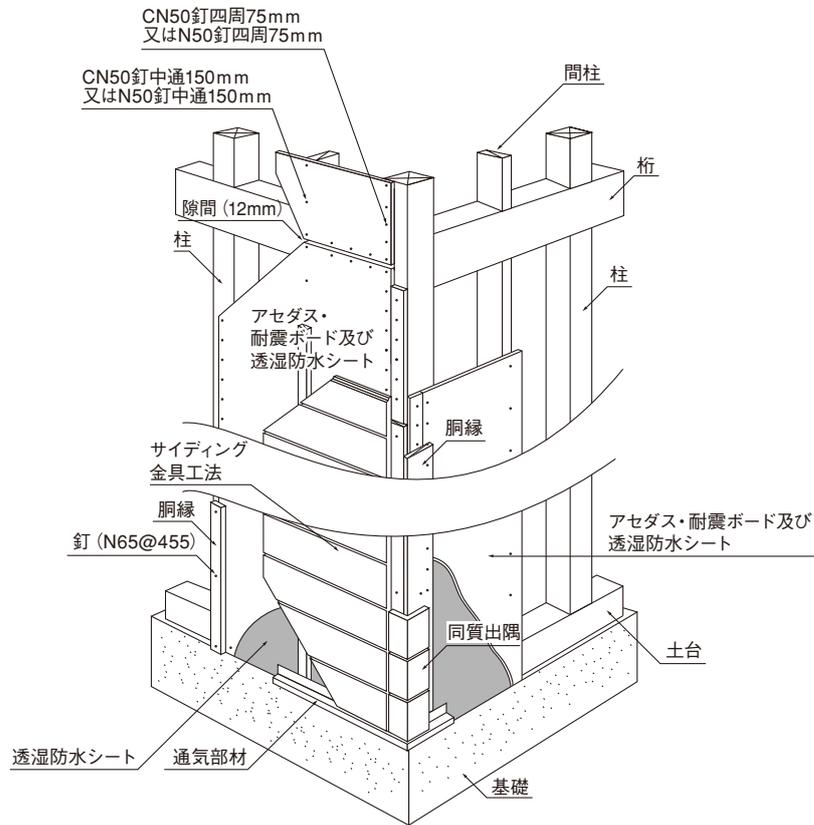
笠木取付断面図



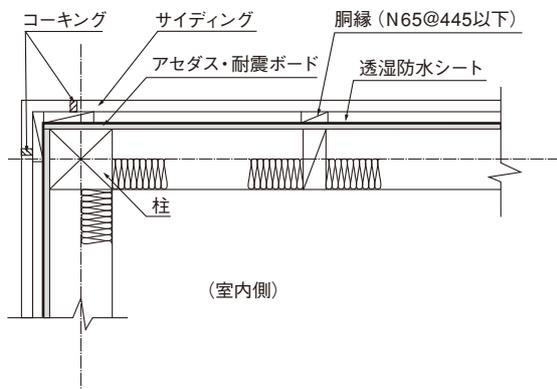
施工および納まりのポイント

木造軸組直張り・サイディング仕様

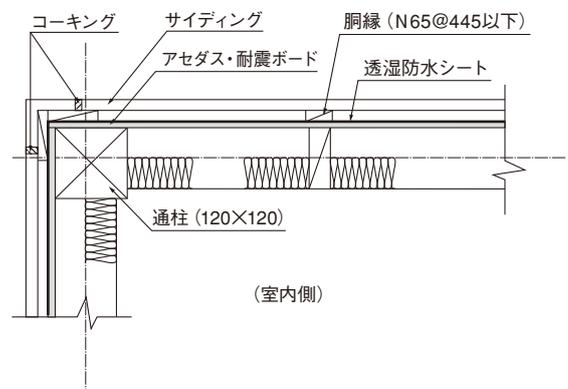
【出隅の納まり】



■全ての柱が120×120または105×105の場合



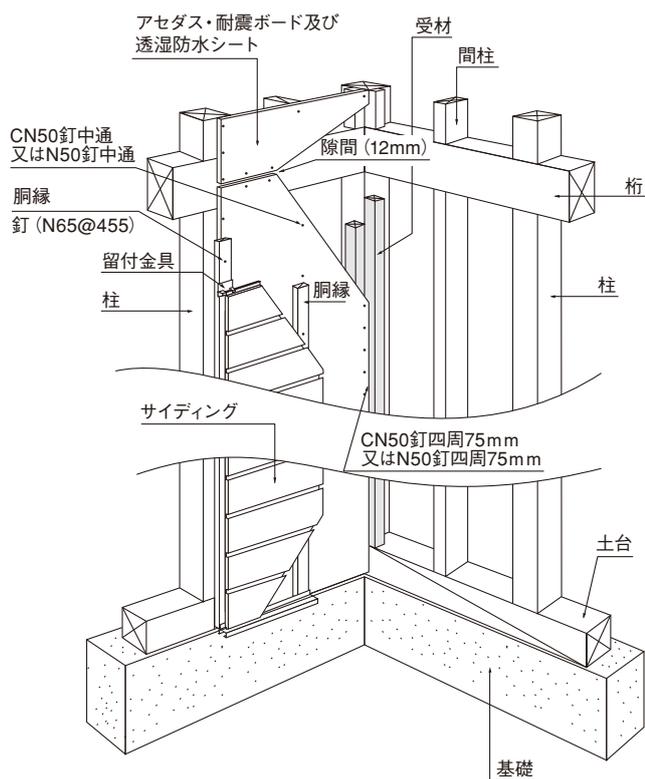
■120×120通柱と105×105管柱を混在させる場合 (外面合わせ)



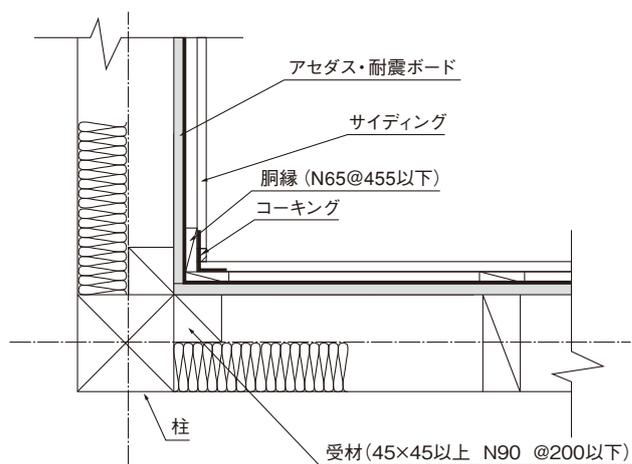
※たて受材仕様は、柱や土台、桁等の中にアセダス・耐震ボードが入り込んだ場合には認定外施工となる場合がありますので事前に建築主事等に相談してください。

【入隅の納まり】

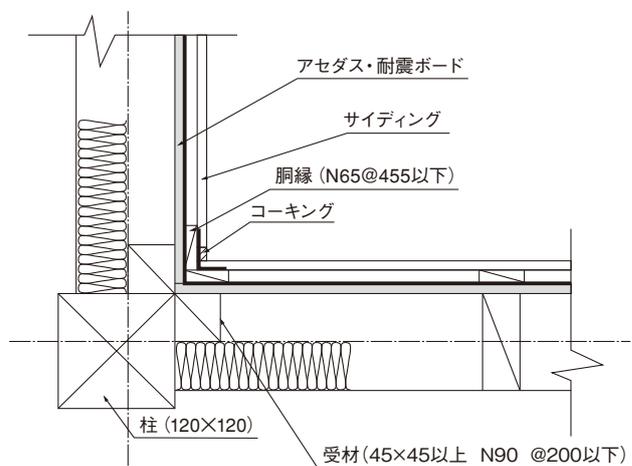
たて受材仕様 (CN50釘使用 壁倍率3.0、N50釘使用 壁倍率2.6)



■全ての柱が120×120または105×105の場合



■120×120通柱と105×105管柱を混在させる場合 (外面合わせ)



※たて受材仕様は、柱や土台、桁等の中にアセダス・耐震ボードが入り込んだ場合には認定外施工となる場合がありますので事前に建築主事等に相談してください。

施工および納まりのポイント

木造軸組直張り・モルタル仕様（通気構法の場合）

1. アセダス・耐震ボードの施工

- ・アセダス・耐震ボードをCN50又はN50釘にて、柱、間柱などの下地に取付けてください。
- ・アセダス・耐震ボードの取付は印刷面を外側にして軽く突き付けて施工してください。
- ・アセダス・耐震ボードの釘打ちは太め丸くぎ（CN50）または鉄丸くぎ（N50）以下、中央部は150mm以下のピッチで、それぞれ下地に直接取り付けてください。
- ・表面には透湿防水シートを施工してください。
- ・アセダス・耐震ボードの下端は基礎天端から10mm程度浮かせて施工ください。（ボード木口からの吸水を防ぐため）

2. 胴縁の取付け

- ・胴縁は厚さ15mm以上、幅45mm以上としN-65以上の釘にて、柱・間柱位置に取付けます。
- ・開口部まわりは横胴縁を上下に取付けます。縦胴縁はこの横胴縁と約50mmの隙間を設けて、横方向に通気できるようにしてください。
- ・開口部には外付けサッシ(又は二重サッシ)を用いるか、木製額縁(18mm×60mm)を用いてください。
- ・土台部・軒天部の胴縁は、ラス止め用の受材を横にも取付けてください。
- ・モルタルの厚みを均一にするために補助胴縁の施工をおすすめします。
- ・補助胴縁は胴縁の中間位置に施工してください。

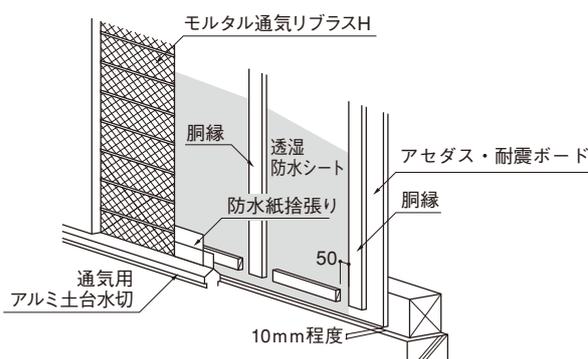
3. モルタル通気リブラスHの施工

- ・あらかじめ土台部分や二階屋根取合部分に、幅150mm程度の防水紙を捨張りしてください。
- ・出隅・入隅部に切断した通気リブラスHを縦張りしておきます。ラスは、大リブを中心に300mm幅程度を長手方向に切断したものを使います。
- ・通気リブラスHは横張り・レンガ張りとして、右下隅より張り始めてください。
- ・ラスの左右の継目は、胴縁上で行なってください。
- ・ラスの左右と上下の重ねは30mm以上とし、リブどうしを重ねず、必ずずらして張ってください。（重ね部分は、ラスハッカーを使用して必ず網目どうしをよじり、一体化してください。）
- ・釘はシージングボード釘(SN-40)又は、N-38を、ステーブルはマックス(株)製(932T・938T)を使用し、胴縁上で大リブの凹み部分に打ち付けてください。（この際、大リブをつぶさないように注意してください。）
釘打ちピッチは150mmとし、ラスの端部は75mmとします。
- ・開口部や庇の周囲には、火打ち方向に300mm×300mm程度の、防水紙を取り除いたラスを補強張りしてください。（重なった網目どうしをよじってください。）
- ・補助胴縁にはラスを留めないでください。

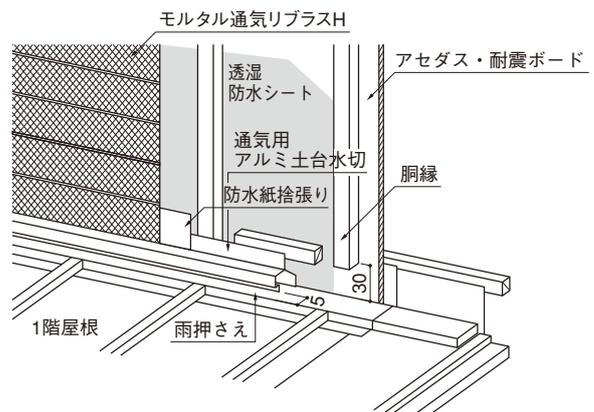
※ 備考

- ・モルタルは軽量セメントモルタルを使用ください。
- ・モルタルの施工は軽量セメントモルタルメーカーの標準施工に準じてください。
- ・養生期間は、各塗り層ごとに十分に行なってください。
- ・補助胴縁：通気胴縁の補助的なものです。軽量モルタル塗り厚みを均一とし、通気層を確保するプラスチック製又は木製のもの。

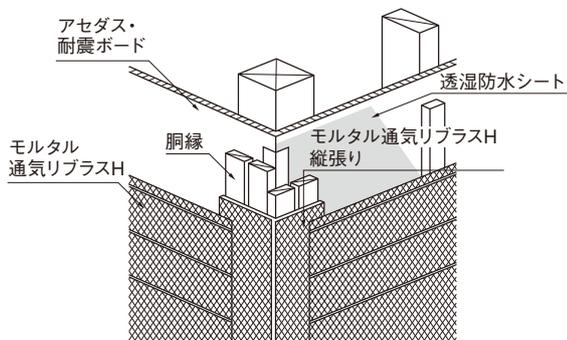
土台部の納まり



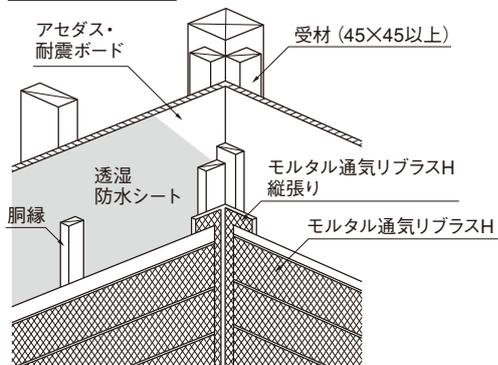
1階屋根部の納まり



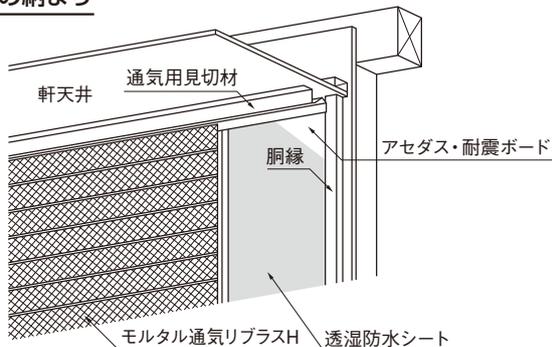
出隅部の納まり



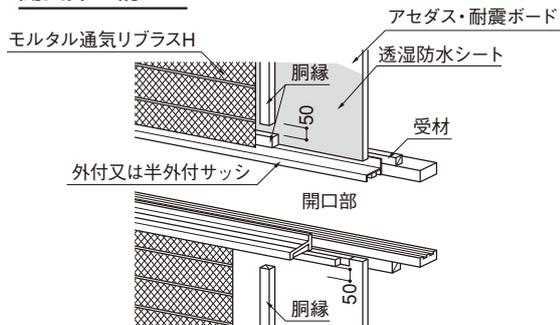
入隅部の納まり



軒部の納まり



開口部の納まり



ラスの重ね

■上下の重ね

- ①基本的に
 {ラス網はラス網どうし }
 {防水紙は防水紙どうし }
 をそれぞれ30mm以上重ね合わせてください。



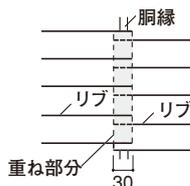
■上下の重ね②

- ②下段に張ったラスの防水紙と網のステッチングをはずし、
 網と紙が開くようにして上段のラスを差込み、
 ラスどうしが30mm以上重ねるようにしてください。

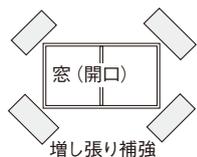


■左右の重ね

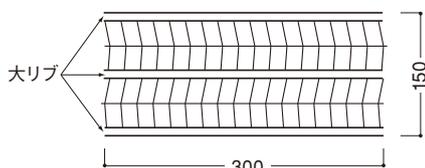
- 胴縁上でリブをずらせて30mm以上重ねてください。



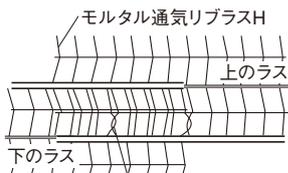
開口の補強



補強用ラスのカット寸法

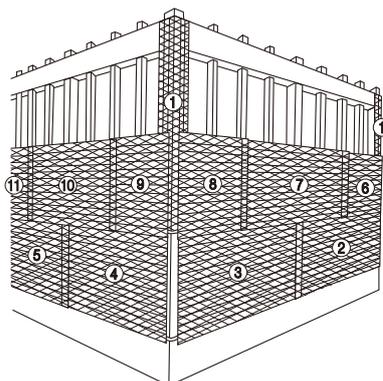


ラスの結束



重なった網目をメッキ処理した結束線(#21程度)で
 結束してください。
 (従来のラスハッカーも使用可能です。)

ラス張りの手順



- ・右下から順に横張りして2段目からはレンガ張りしてください。
- ・土台部等下段列のラスは、網目を1目(10mm程度)ずらして張ってください。

施工および納まりのポイント

木造軸組直張り・モルタル仕様（非通気構法の場合）

【施工上の留意点】

①防水紙の貼付

アセダス・耐震ボード施工後、ラス時の施工前に、全面に防水紙（アスファルトフェルト430）を施工してください。たるみ、しわが無くなるように上から打ちとめてください。

②防水紙の継ぎ目は、100mm以上、重ね合わせてください。

③ラス張り付け

ラスは、シーリングボード・オビラスを推奨します。シーリングボード・オビラスはステープル938T（9mm肩幅×38mm足長）以上、を使用し150mmピッチ以下で柱、間柱、土台、桁（胴差し）等の軸組材上で行ってください。

継ぎ目は縦横30mm（一山）以上重ねてください。

注）ラスの浮き上がり、たるみのないように施工してください。足長さ10mm程度のステープルで仮留めしてください。

●開口部

ラスを張り付け後、開口部4隅に平ラス1号以上又は、シーリングボード・オビラスを150×400mm程度にカットして張り付けてください。

注）アルミサッシ部分に直接つけないで、10mm以内で離しておいてください。（電解腐食をさけるため）

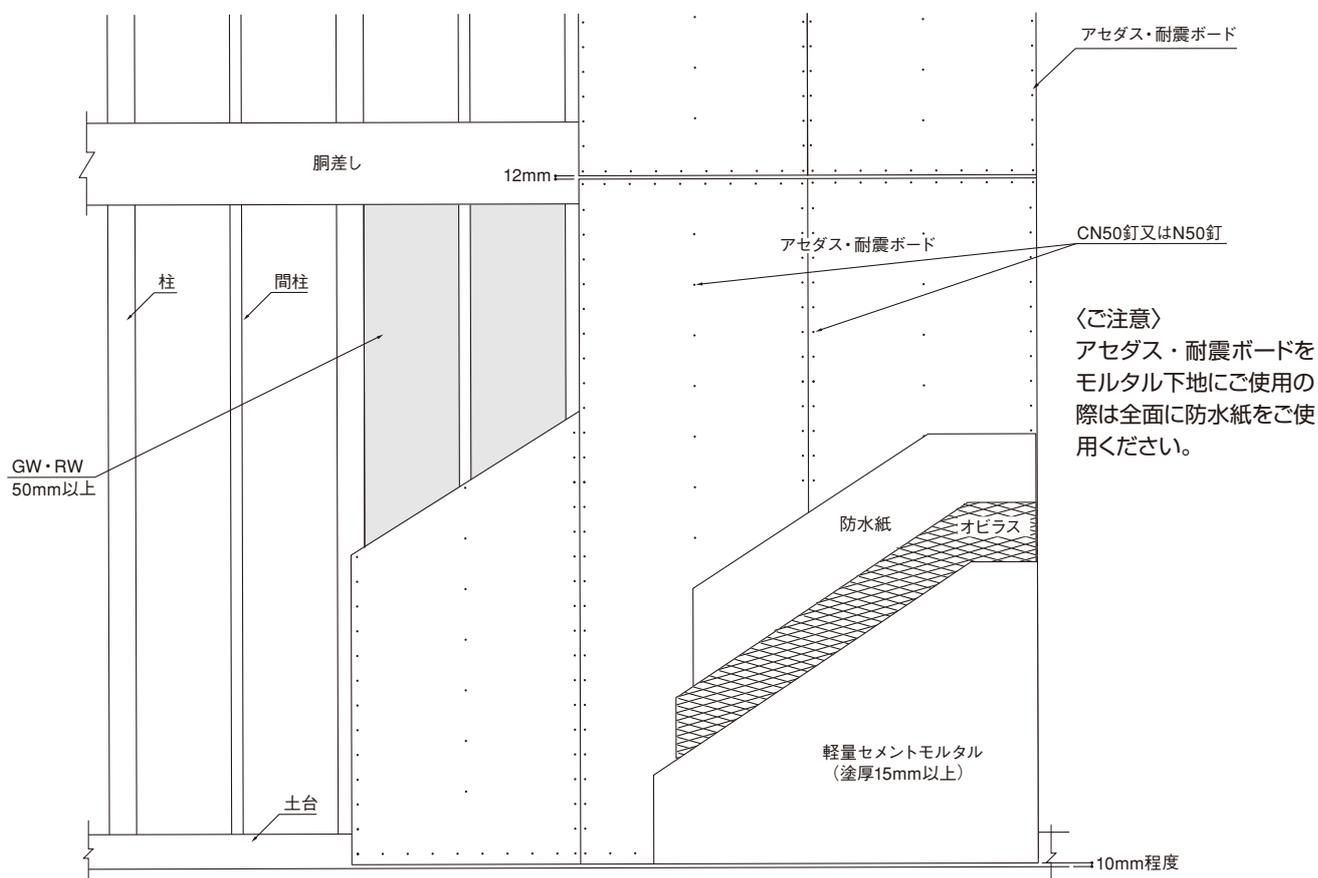
④軽量セメントモルタルの塗り付け

塗り付け厚は、下塗り上塗りを含め15mm以上としてください。

モルタルの塗り付けは各軽量セメントモルタルメーカーの仕様書に従ってください。

⑤断熱材

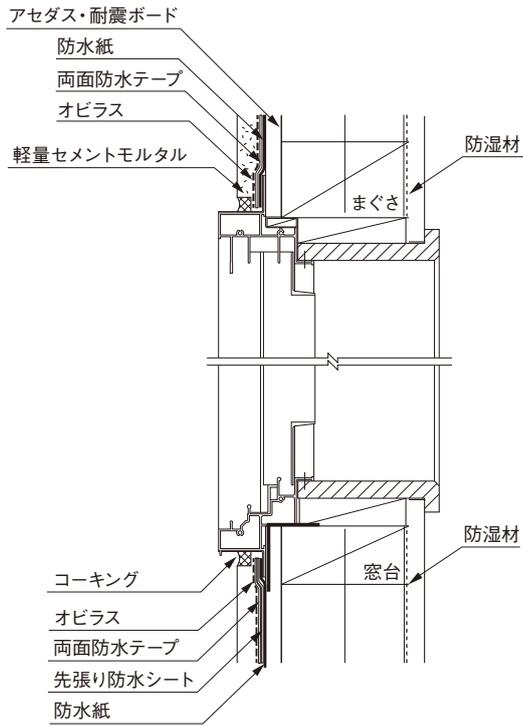
GW（グラスウール）または、RW（ロックウール）50mm以上を室内側に敷き詰めてください。



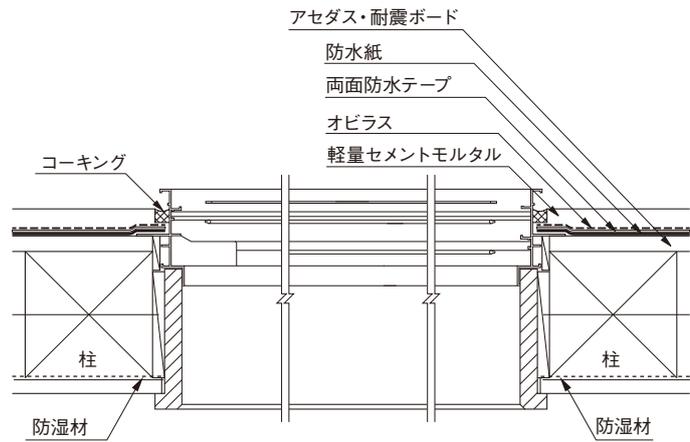


【各部の納まり】（必ずアセダス・耐震ボードを先に取り付け、サッシは後付けにしてください。）

■ サッシ廻り（半付けサッシの場合）縦断面図



■ サッシ廻り（半付けサッシの場合）横断面図



アセダス・耐震ボード 耐力壁認定番号

軸組工法 直張り(大壁)	CN50釘使用	認定番号 FRM-0150	壁倍率2.6倍
軸組工法 直張り(大壁)	N50釘使用	認定番号 FRM-0304	壁倍率2.7倍
軸組工法 直張り(大壁・たて受材仕様)	CN50釘使用	認定番号 FRM-0204	壁倍率3.0倍
軸組工法 直張り(大壁・たて受材仕様)	N50釘使用	認定番号 FRM-0305	壁倍率2.6倍
軸組工法 直張り(床勝ち仕様)	CN50釘使用	認定番号 FRM-0236	壁倍率2.6倍

※大臣認定書(別添書類)が必要な際は最寄りの大建工業株式会社営業所にお申し付けください。

使用できる釘のJIS規格および対応する釘打ち機

	釘の種類、名称	寸法(単位:mm、括弧内は許容差)			JIS規格番号、名称
		頭部径	胴部径	長さ	
アセダス・耐震ボード	N50…鉄丸くぎ(在来)	6.6 (±0.66)	2.75 (±0.06)	50 (±2.5)	JIS A 5508 くぎ
	CN50…太め鉄丸くぎ(2×4)	6.76 (±0.68)	2.87 (±0.10)	50.8 (±1.6)	JIS A 5508 くぎ

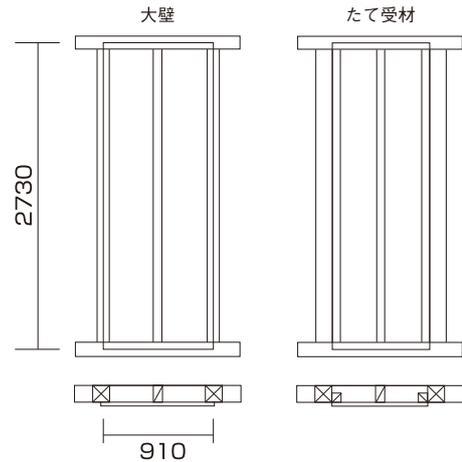
	種類	メーカー名	釘の品番	釘打ち機(主な対応機種例)
アセダス・耐震ボード	N50	マックス(株)	FCP50V8(N50) FC50V8(N50)	CN-565CG、HN-65N1
		日立工機(株)	VS2850JU、VS2850JJ	NV65AJ、NV65HMC
		(株)マキタ	WF2850N	AN621、AN620H
		アマテイ(株)	FC-N50	対応釘打ち機については、 メーカーにお問合せください。
	CN50	マックス(株)	FCP50V9(CN50) FC50V9(CN50)	CN-565CG、HN-65N1
		日立工機(株)	VS2850FU	NV65AJ、NV65HMC
		(株)マキタ	WF2950	AN621、AN620H
		アマテイ(株)	FC2850	対応釘打ち機については、 メーカーにお問合せください。

※これらの商品は弊社では取り扱っておりません。釘、釘打ち機に関するご質問は各メーカーにお問合せください。

※他のメーカー、機種については作動確認の上、ご使用ください。

耐力壁の作り方のポイント

- ① 耐力壁の高さの標準寸法（芯々）は2730mm（木造軸組工法）
また、幅の標準寸法は、壁の高さ（土台～桁の芯々距離）の1/3・910mmが標準です。
- ② 耐力壁は構造用面材を定められた釘により定められた釘間隔で土台、桁（梁）、柱、間柱に直接とめ付けなければなりません。入隅部はたて受材施工することができます。
- ③ 耐力壁とするためには1P（910mmが標準）の長さが必要です。また、耐力壁の両端は必ず柱材とし、途中で打ち継ぐ場合は、45×100mm以上の継手間柱を使用しなければなりません。

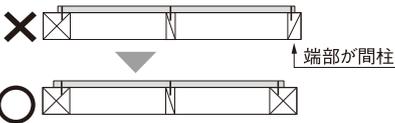


耐力壁の水平長さと耐力面材の張り方

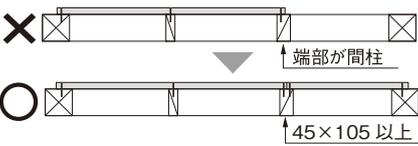
■ 0.5P単独では耐力壁にカウントできません



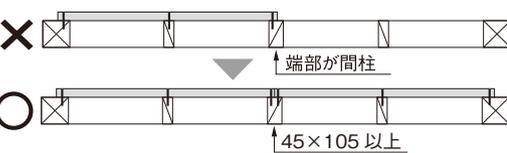
■ 大壁の場合



■ 大壁の場合

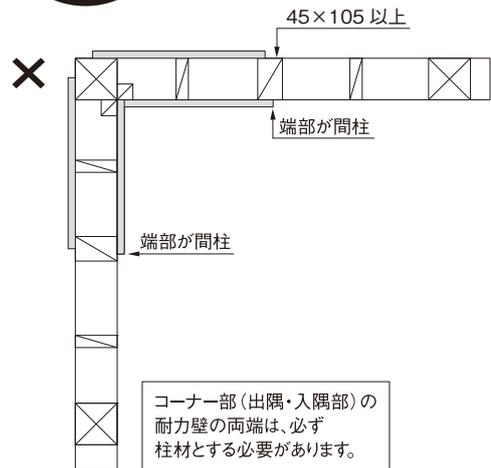


■ 大壁の場合

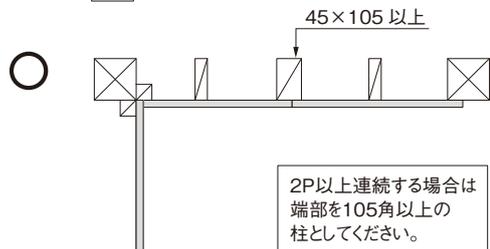
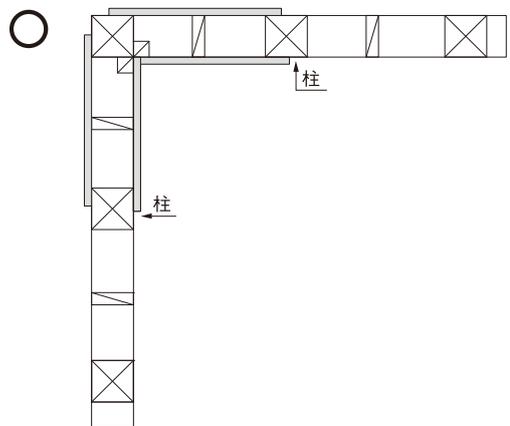


Ⓢ アセダス・耐震ボードは真壁での耐力壁の認定はありませんので耐力壁としてカウントできません。

コーナー部における耐力面材の張り方



▼ 間柱を柱に変更



主な防耐火構造一覧

【30分防火構造】

適用できる工法	木造軸組工法
釘仕様	CN50・N50
認定番号 PC030BE-1884	
軽量セメントモルタル 15mm以上 (補強材として グラスファイバーネット 使用可)	石膏ボード 9.5mm以上
メタルラス	断熱材 ・GW 50mm以上 ・RW 50mm以上
アセダス・耐震ボード (アスファルトフェルト表張り)	軸材105角以上
認定番号 PC030BE-1885	
軽量セメントモルタル 15mm以上 (補強材として グラスファイバーネット 使用可)	石膏ボード 9.5mm以上
メタルラス	断熱材 ・GW 50mm以上 ・RW 50mm以上
通気層(胴縁) 12mm以上	
アセダス・耐震ボード (透湿防水シート表張り)	軸材105角以上
認定番号 PC030BE-1886	
軽量セメントモルタル 15mm以上 (補強材として グラスファイバーネット 使用可)	石膏ボード 9.5mm以上
メタルラス	断熱材 ・GW 50mm以上 ・RW 50mm以上
通気層(胴縁) 12mm以上	
下地材※	
アセダス・耐震ボード (透湿防水シート表張り)	軸材105角以上

【45分準耐火構造】

適用できる工法	木造軸組工法
釘仕様	CN50・N50
認定番号 QF045BE-0804	
軽量セメントモルタル 15mm以上 (補強材として グラスファイバーネット 使用可)	石膏ボード2枚張り 9.5mm以上+ 12.5mm以上
メタルラス	断熱材 ・GW 50mm以上 ・RW 50mm以上
アセダス・耐震ボード (アスファルトフェルト表張り)	軸材105角以上
認定番号 QF045BE-0805	
軽量セメントモルタル 15mm以上 (補強材として グラスファイバーネット 使用可)	石膏ボード2枚張り 9.5mm以上+ 12.5mm以上
メタルラス	断熱材 ・GW 50mm以上 ・RW 50mm以上
通気層(胴縁) 12mm以上	
アセダス・耐震ボード (透湿防水シート表張り)	軸材105角以上
●通気層は省略可 ●モルタル下地施工可(詳細は認定書参照)	
認定番号 QF045BE-0806	
軽量セメントモルタル 15mm以上 (補強材として グラスファイバーネット 使用可)	石膏ボード2枚張り 9.5mm以上+ 12.5mm以上
メタルラス	断熱材 ・GW 50mm以上 ・RW 50mm以上
通気層(胴縁) 12mm以上	
下地材※	
アセダス・耐震ボード (透湿防水シート表張り)	軸材105角以上

適用できる工法	木造軸組工法・枠組み工法
釘仕様	CN50・N50
認定番号 PC030BE-9201 〈30分防火構造〉	
窯業系サイディング 12mm以上 通気層 アセダス・耐震ボード (透湿防水シート表張り)	 内装材 ・石膏ボード 9.5mm以上 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;">断熱材はGWまたはRWをご使用ください</div> 軸材105角以上
認定番号 QF045BE-9226 〈45分防火構造〉	
窯業系サイディング 12mm以上 通気層 アセダス・耐震ボード (透湿防水シート表張り)	 内装材 ・石膏ボード 15mm以上 ・石膏ボード重ね張り (9mm以上+) (12mm以上) など <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;">断熱材はGWまたはRWをご使用ください</div> 軸材105角以上
認定番号 QF060BE-9225 〈60分防火構造〉	
窯業系サイディング 15mm以上 通気層 アセダス・耐震ボード (透湿防水シート表張り)	 内装材 ・石膏ボード重ね張り (12mm以上+) (12mm以上) など <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;">断熱材はGWまたはRWをご使用ください</div> 軸材105角以上

※ 木質系ボード(構造用合板、パーティクルボード、MDF等)、およびケイ酸カルシウム板等。

認定番号PC030BE-9201、QF045BE-9226およびQF060BE-9225の設定諸条件については住宅外装テクニカルセンター(JTC)にお問い合わせください。その他の仕様については弊社にお問い合わせください。

大建工業株式会社

本社 / 〒530-8210 大阪市北区堂島1丁目6番20号(堂島アバンザ22F)

© DAIKEN CORPORATION 2013.05

本書に収録したものはすべて当社に著作権の存するものですから、無断の複製はかたくお断りします。

業務用

■当説明書の内容等は予告なく改訂する場合があります。

発行

2013年5月

[547-02] TF2013.05回(P1.3-01)